



## @ 「村上さんのところ」

(続き) 始めました。そこで、おりいって質問です。村上さんは、英語をどのように学習し、身につけられたのでしょうか？ぜひ参考にして、励みにしたいと思います。極秘情報ということでなければ、教えて下さい。ヨロシクお願いします！ (イルカくん、女性、43歳、会社員)

▼僕の場合は「外国語で小説を読む」という行為の素晴らしさそのものにすっぽりはまってしまうました。高校生 のときです。日本語にまだ訳されていない本も読めますし、そこには「他人と違うことをしているんだ」という喜びもありました。十代の頃って、そういうことがすごく大事なんです。

英語で本を読むしかないという環境に自分を置いてしまうことも大事です。英語の本しか読めないとすると、しょうがなくて読んでしまいます。僕がお勧めするのは、もし上下巻に分かれている本なら、上巻を日本語で読んで、下巻(部分)を英語で読むという方式です。これなら読書の流れができていますので、けっこうすらすらと英語で読めます。がんばってください。

○失われてしまったものを抱えて

▽村上さんこんにちは。いつか村上さんに話したいと思っていたことを書きます。もう何年も前のことですが、3人目の赤ちゃんを身ごもり、妊娠5ヶ月目の健診に病院に行きました。予約をしても2~3時間待つのはざらなので、ゆっくり本を読めるいい機会だと思って、本棚にあった村上さんの本を持っていきました。『羊をめぐる冒険』だったと思います。ようやく診察の順番が回ってきて、女医さんがエコーでお腹を診たあと、「赤ちゃ

んはお腹の中で亡くなっています。成長の度合いからみて、1ヶ月くらい前にはもう亡くなってたと思われま

す」とわたしに告げました。しばらく言われていることがよくわからなくて、でも事実を飲み込むしかないって理解したとき、とうとうと涙が出てきました。でも、それぞれに元気な赤ちゃんに会う日を楽しみにしている妊婦さんがいっぱいいる待合室でお会計を待たなくちゃならなくて、なんとか泣くのをがまんしよう、と思って、『羊をめぐる冒険』をいっしょうけんめい読んだのです。心の底から悲しい気持ちをまぎらわすために読んだ、手元にあった本が、村上さんの本で、ほんとうによかったと、とても感謝しています。「もう失われてしまって、二度と戻ってこないこと」というのが、わたしはそのときまでぴんときてなかったのですが、そのことばが、わたしの心にすっと添ってくれたように思いました。悲しみは消えないけど、それでずいぶん救われた気がします。物語の力に、感謝します。ありがとうございました。

(びつつ、女性、43歳、自由業)

▼お気の毒です。とても悲しかったと思います。どうかその悲しみを抱えて生きていてください。それも生きる大事な意味のひとつだと僕は思います。「悲しいことは早く忘れた方がいいよ」と言う人もいるでしょうが、悲しみを忘れないこともやはり大事です。もしよかったら、まだ読んでいなかったら、僕の『国境の南、太陽の西』という小説を読んでみてください。ひょっとして、あたなの気持ちに通じるものが少しはあるかも知れませんが、